教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 小 町 谷 圭

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 芸術	メディアアート、映像メディア	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 東京芸術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻 ① スタジオ講習(メディア・リテラシー)	平成18年4月～平成24年3月	学内情報共有のあり方やメディアの読み書きについてwikiシステムを用いた演習。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅠA】
2) 東京芸術大学美術学部 先端芸術表現科 ① 「メディア・リテラシー基礎」	平成20年4月～平成24年3月	電子機器を利用した情報共有や表現のあり方についての演習。デジタルカメラやスキャナ、画像処理ソフトやメール、wiki等を利用したコンピュータリテラシーの演習。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅠA】
② 「メディア・リテラシー応用」	平成19年1月～平成24年3月	プログラミングや電子工作等の技術を利用した作品の制作。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
3) 東京芸術大学芸術情報センター ① 「フィジカルコンピューティング演習A」	平成22年4月～平成24年3月	センサーやアクチュエータを使った表現の基礎。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
② 「フィジカルコンピューティング演習B」	平成22年4月～平成24年3月	センサーやアクチュエータを使った表現の応用。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
③ 「モバイルコンピューティング演習」	平成23年4月～平成24年3月	無線やインターネット、モバイル機器を用いた表現の演習。
④ 4) 武蔵美術大学造形学部映像学科 ① 「メディアテクノロジー演習」	平成22年4月～平成24年3月	映像制作に関わる装置の技術的理解と映像装置の制作と表現。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
② 「メディア・アートⅡ」	平成23年4月～平成24年3月	メディア・アートの展覧会の実践。
5) 札幌大谷大学芸術学部 美術学科 ① 「メディアアート基礎ⅠA」	平成24年4月～現在に至る	絵画表現と写真表現を中心としてイメージをとりまくメディアの変遷とその特徴を理解するための演習。
② 「写真・映像表現研究ⅡB」	平成24年4月～現在に至る	ドキュメンタリーやフィクション、モノログ、ダイアログ等、様々な映像手法を理解・応用し表現するための演習。
③ 「メディア・リテラシー」	平成28年4月～現在に至る	それぞれのメディアの特性を自覚し、情報を批評的に捉えるだけでなく、情報を発信するための講義
2 作成した教科書、教材 1) 東京芸術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻 ① 「スタジオ講習(メディア・リテラシー)」	平成18年4月～平成24年3月	グループウェアwikiを用いた学内情報共有システムの制作。【関連授業科目：メディアアート基礎ⅠA】

事 項	年月日	概 要
2) 東京芸術大学美術学部 先端芸術表現科 ①「メディア・リテラシー基礎」	平成20年4月～ 平成24年3月	スライドショーを用いたドラマを制作するためのソフトウェアの制作。 【関連授業科目：メディアアート基礎ⅡB】
②「メディア・リテラシー応用」	平成19年1月～ 平成24年3月	プログラミングの基礎を理解するためのボードゲームの制作。 また、電子機器の入出力を理解するためのキットの制作。 【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
3) 東京芸術大学芸術情報センター ①「フィジカルコンピューティング 演習A」	平成22年4月～ 平成24年3月	形を論理的に生成する思考を養うため、正四面体の展開図を用い、レーザーカッターで素材を切り出しタイリングの模様を制作するための教材の制作。
②「フィジカルコンピューティング 演習B」	平成22年4月～ 平成24年3月	電子機器の入出力回路を理解するための参考回路やサンプルプログラムをまとめたテキストブックの制作。 【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
③「モバイルコンピューティング演習」	平成23年4月～ 平成24年3月	放送という概念を理解するためのミニFMを用いた教材の制作。
4) 武蔵美術大学造形学部映像学科 ①「メディアテクノロジー演習」	平成22年4月～ 平成24年3月	マルチスクリーンやモーションコントロールカメラの原理を理解するための映像装置の制作と、各自学生が応用し、映像装置を制作するために参考にする回路やサンプルプログラム等を納めたテキストブックの制作。 【関連授業科目：メディアアート基礎ⅣB】
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 札幌大谷大学芸術学部美術学科 の設置認可申請に伴う教員評価	平成23年4月	当該教員は、メディア・アートを専門とする研究者である。大学院修了後、高等教育機関において4年間の教育歴がある。その間、国内外における研究、制作等を通し多種多様な研究活動を積極的に展開し、芸術文化の向上発展のために大いに貢献してきた。 以上の研究上の実績並びに教育歴を本学部の専任教員採用規程に照らし、担当科目を教授する資質は十分に有すると評価する。
2) 自己点検・評価評価結果 3) 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果		なし なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) ワークショップ ① ピンホールカメラワークショップ	平成15年8月	会場：新潟県大島中学校
②ラジオ局を作ろう	平成14年8月	会場：新潟県大島中学校
③「発電した電気で発電機を作る」	平成23年10月	場所：東京芸術大学美術学部構内絵画棟大石膏室アートスペース 主催：I, CULTURE PUZZLE
④「発電した電気で発電機を作る」	平成24年11月	さっぽろアートステージ 2012, 札幌市地下歩行空間

事 項	年月日	概 要		
⑤ フォレスト・ノート-森を知る方法-	平成26年8月	東区の児童館の児童と札幌国際芸術祭の会場であるモエレ沼公園内の芸術作品の鑑賞の後、フォトグラムという手法を用いて作品の制作。		
5 その他		なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事 項	年月日	概 要		
1 資格, 免許		なし		
2 特許等		なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		なし		
4 その他 1) 舞台 ①” Momo, Momoko, Moe et……the silence between dreams”	平成22年12月	舞台装置： <u>小町谷圭</u> 演出：生西康典、音楽：大谷能生、美術：鈴木ヒラク、照明：掛川康典 出演：黒川モモ、島田桃子、宇都宮萌、さや（テニスコート）、飴屋法水ほか 会場：SuperDeluxe		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1. A Robot Painter- Reproduction of Drawing Behavior by a Robot.	共著	平成19年3月	ASIAGRAPH Vol. 2, No. 1 pp. 85~90	本稿では、多指ハンドとステレオビジョンを持つロボットの描画について説明した。本研究の目的は、人間の描画に関連する全体の手順をロボットによって再現することである。描画動作は、三次元モデルの取得、構成する画像モデルとロボットによる描画、3つのフェーズに分かれている。実験として、リンゴと人間のシルエットを、コンピュータビジョン、力センサを含む様々なフィードバック技法を使用するシステムを使用してキャンバス上に描画した。 (共著者) 工藤俊亮、高松淳、ルチャヌラック・ミティ、池内克史、小川原光一、 <u>小町谷圭</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 2. KOREOE:対話的油絵描画システム	共著	平成19年3月	描くを科学する プロセスを読み解く 発行・編集:独立行政法人 JST, Crest「デジタルメディアを基盤とした21世紀の芸術創造」(東京芸術大学大学院映像研究科藤幡研究室) pp. 33~37	コンピュータ・アプリケーションは芸術表現には書かせない道具となってきた。一方、多くのアプリケーションは作業の合理化を目的とし、修練による創造的な素材を提供しているとは言い難い。技法の発明は、画材の改良との密接な関係の中で生まれてきたため、表現者を魅了してきた油絵の環境をコンピュータ上でシミュレーションし、どのように新たな創造性を支援するための技術へ繋げるのか、筆、キャンバス、絵の具、3つのフェーズに分け、油絵描画シミュレータのシステムについて述べた。 (共著者) 齋藤豪、窪田潤、岡部雄太、張英太、山田英樹、島哲生、 <u>小町谷圭</u> 、津田やよい、佐藤一郎、藤幡正樹、中嶋正之
3. 描画を通じたコミュニケーション・モデル-子供の描画行為の観察方法	共著	平成19年3月	描くを科学する プロセスを読み解く 発行・編集:独立行政法人 JST, Crest「デジタルメディアを基盤とした21世紀の芸術創造」(東京芸術大学大学院映像研究科藤幡研究室) pp. 25~32	本研究では、子供を対象に描画行為を観察し、他者とのコミュニケーションが生起するプロセスについて考察した。観察された描画前の宣言、描画後の命名、前後で宣言と命名が異なる事例に触れ、内的な一つのイメージを単に出力すると考えられている描画行為とは大きく異なることを示した。また、描画を介したコミュニケーションが成立するか、新たに描画チューリングテストを開発し検証した。 (共著者) 藤幡正、 <u>小町谷圭</u> 、齋藤達也、川崎昌平
4. ロボットによる描画行為のシミュレーション	共著	平成19年3月	描くを科学する プロセスを読み解く 発行・編集:独立行政法人 JST, Crest「デジタルメディアを基盤とした21世紀の芸術創造」(東京芸術大学大学院映像研究科藤幡研究室) pp. 12~19	描画ロボットの開発について、三次元の知覚とオブジェクトの検査や、ブラシや塗料を使用して実際の描画操作する方法について説明した。三次元の知覚から線の抽出アルゴリズム、並びに筆の操作方法について触れ、最後に実験を通し、描画の経験者と非経験者による構図の違いについて述べた。 (共著者) 池内克史、小川原光一、高松淳、工藤俊亮、 <u>小町谷圭</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 5. A drawing-based communication model: Methods for observing drawing habits of children	共著	平成19年8月	IROS 2007 (Work shop)	<p>本研究では、子供を対象に描画行為を観察し、他者とのコミュニケーションが生起するプロセスについて考察した。観察された描画前の宣言、描画後の命名、前後で宣言と命名が異なる事例に触れ、内的な一つのイメージを単に出力すると考えられている描画行為とは大きく異なることを示した。また、描画を介したコミュニケーションが成立するか、新たに描画チューリングテストを開発し検証した。</p> <p>(共著者) MasakiFujihata, <u>KeiKomachiya</u>, TatsuyaSaito, Shouhei Kawasaki</p>
6. 対象物と照明環境の実測値を用いた絵画における陰影表現の解析	共著	平成21年6月	<p>情報処理学会研究報告. CVIM, [コンピュータビジョンとイメージメディア] 2009-CVIM-167(7), 1-8, 2009-06-02 (最優秀賞受賞) 一般社団法人情報処理学会</p>	<p>ノンフォトリアリスティック・レンダリングは絵画的画像を生成する CG の分野である。この解析手法は絵画の表面的な特徴を写真に適用するといった手法に限定されている。提案手法は、画家の陰影表現を、モチーフと照明の実測値を基に比較し解析を行う。実環境に基づいた解析を行うことで、環境を捉えるところから始まる人間の連続の絵画作成メカニズムを調べた。</p> <p>(共著者) 和田明菜、川上玲、工藤俊亮、池内克史、<u>小町谷 圭</u>、三浦高宏、松井茂、藤幡正樹</p>
7. Inherent Expression by a Flexible Drawing Robot	共著	平成21年10月	<p>In DVD Proceedings of the 13th International Conference on Human-Computer Interaction (H CI International 2009), San Diego, CA, USA, 19-24 July, pp. pp. 104~108.</p>	<p>本研究では、ヒトがどのように身体の動特性を利用し個性的な線を描画するのかを理解するため、柔軟性を持つロボットアームを制作した。ロボットの柔軟性を利用して書字された文字の周波数特性とアーム自体の動特性との比較を行い、その結果、書字の速度によって異なる字形が表れ、固有振動数の近傍で個性的な線になることがわかった。本論文では、ロボットの動特性と書字の分析を行い、個性的な描線と身体性の関係について論じた。</p> <p>(共著者) KeiKomachiya, TakashiKiriya, Masaki Fujihata</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 8. Robots as Artworks, Robots as Artists	共著	平成21年12月	Springer (ISBN978-3-642-02884-7). Journal of the 7 th International Conference of ASIA Digital Art & Design Association, Dec 2009	本論文は、実験のために開発された2つのロボットの芸術的な文脈における研究について論じた。絵を描くための計算機としてのロボットによって、60年代から70年代のコンピュータ・アートのように、相互作用とユニークさの概念を考察した。芸術史のいくつかのロボットと比較し、芸術の社会的役割について説明し、最後にナムジュン・パクの格言に同意し、技術批評としての芸術の役割に結論づけた。 (共著者) Jung-Yeon, <u>KeiKomachiya</u> , MasakiFujihata
9. 柔軟な線描画ロボットに基づく個性的な表現と身体性の研究	共著	平成23年4月	“映像メディア学(東京藝術大学大学院映像研究科紀要)Vol.2/No.01”, 2011, 東京藝術大学大学院 映像研究科	本研究では、柔軟性を持つロボットアームを用い書字された文字の周波数特性とアーム自体の動特性との比較を行い、固有振動数の近傍で個性的な線になることがわかった。表現における複製技術の問題と署名における反復性について考察し、個性的な表現の原理について論じた。 (共著者) <u>小町谷圭</u> 、桐山孝司、藤幡正樹
(その他) (出品) 1. FMクロスワード	共同	平成14年10月	菜の花里美発見展 おゆみ野(千葉)	(概要) ”FM-Crossword” はラジオから流れるヒントを元にクロスワードを解くゲームです。ラジオから流れてくるヒントは放送エリア内にある町の物事から採られているので、その場所へと移動しながらクロスワードを解いていきます。 (共同制作者) <u>小町谷圭</u> 、亀井宏明、トウウ
2. Inter Focus	単独	平成14年8月	TOKYO ART JUNGLE展 東京国際フォーラム	(概要) 不透明から透明に変化する新素材の液晶を用いたインタラクティブ作品。
3. fm@haruno-ogawa	共同	平成15年4月	春の小川祭り アースデイ イベント 放送エリア: 渋谷	(概要) アースデイの期間限定で開局された人工知能のナビゲータが司会を務めるラジオ放送。メールで投稿した内容を読み上げDJは成長していく。ネットワーク経由で渋谷各地に建てられたminiFMの基地局を介し、リスナー同士がコミュニケーションする作品。 (共同制作者) <u>小町谷圭</u> 、池田正昭、高木和夫

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (出品) 4. Lib-LIVE!	共同	平成17年10月	アート&テクノロジーの過去と未来展 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]	(概要) 影響を与えた書籍に関する表現者のインタビューと、その書籍を観覧する作品。蔵書の中から手に取った書籍を観覧すると同時に、作家のインタビューが流れ、著者と同時にその書籍が影響を与えた作家のインタビューが観覧できる。 (企画監修) 四方幸子 (共同制作者) <u>小町谷圭</u> 、小柳淳嗣、中村崇之、廣田ふみ、渡邊朋也
5. モジューループ	共同	平成18年11月	「モジューループ つくる、つながる、うごきだす」展 山口情報芸術センター (YCAM)	(概要) モジュールと呼ばれる部品を組み合わせて、簡単に仮想生物とすることができる物理シミュレーション・システム。ブロックのように自由に形をつくり、そこに動くモジュールを追加することで、モデルに動きを指示することができる。また、この仮想空間において、現実の物理法則がシミュレートされているため、生物のようなリアルな動きを再現することができる。 (共同制作者) 江渡浩一郎、渡辺訓章、櫻井稔、谷口暁彦、 <u>小町谷圭</u> 、久井亨、小倉順子、前川峻志、川崎禎紀、山口優
6. Modulobe	共同	平成19年4月	オープン・スペース 2007 独立行政法人 産業技術総合研究所, 山口情報芸術センター (YCAM) NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]	(概要) モジュールと呼ばれる部品を組み合わせて、簡単に仮想生物とすることができる物理シミュレーション・システム。ブロックのように自由に形をつくり、そこに動くモジュールを追加することで、モデルに動きを指示することができる。また、この仮想空間において、現実の物理法則がシミュレートされているため、生物のようなリアルな動きを再現することができる。 (共同制作者) 江渡浩一郎、渡辺訓章、櫻井稔、谷口暁彦、 <u>小町谷圭</u> 、久井亨、小倉順子、前川峻志、川崎禎紀、山口優
7. 演算する絵画	単独	平成19年7月	企画展”メディア・エクスプローラー2007展” SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム	(概要) ロボットが自身の描いた線と参加者が描いた線に応答しながら共同で絵画を制作していく作品。作品制作におけるフィードバックを有した道具が果たす役割に付いて問うた作品。

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (出品) 8. 体験展示	共同	平成19年9月	地下展 UNDERGROUND-空 想と科学がもたらす闇 の冒険 日本化学未来館	(概要) 足下に潜む知られざる地下 世界。さまざまな角度から「地下」 を探る企画展。入り口に設置された 巨大ディスプレイにリアルタイムで 世界の気象が表示される体験型の展 示を担当。
9. 演算する絵画	単独	平成21年11月	Media Art @ Front!展 町田市立国際版画美術 館	(概要) ロボットが自身の描いた線 と参加者が描いた線に应答しながら 絵画を制作していく作品。
10. Materia ex achine- 機械仕掛けの絵肌-	単独	平成21年11月	個展 NTT インターコミュニ ケーション・センター [ICC]	(概要) 東京芸大と東京工業大学に よって研究開発されたオイルペイン ティングシミュレータソフトウェア を用い描いた作品データから3Dカ ラプリンタを用いて実体化した絵 画作品の展示。
11. 風景画あるいは人物 画	単独	平成22年1月	企画展 デジタル・オイル・ペイ ンティング展-油画描画 シミュレータを使って- 東京藝術大学大学美術 館	(概要) 東京芸大と東京工業大学に よって研究開発されたオイルペイン ティングシミュレータソフトウェア の成果発表展示。
12. おかえりなさい、う た -Dusty Voices, Sound of Stars	共同	平成22年6月	第2回恵比寿映像祭 -歌をさがして- 東京都写真美術館	低解像度の映像とサラウンドの音響 設備による作品上映。 (共同制作者) 生西康典、さや、山 本精一、ククナッケ、小町谷圭、他 29名
13. BED vol.4 -眠り 人のための演奏会-	共同	平成23年2月	トーキョーワンダーサ イト TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL 29. SOUND, ART & PERFORMANCE	即興演奏と舞台 企画/演出: スエナガゴウ 出演: スエナガゴウ/大谷能生/吉田ア ミ/有田尚史/松下アキコ/よしうら けんじ/小沼ゆうじ/牧野早苗 舞台美術: 原田愛 照明: 小町谷圭 音響: 吉村卓宏 (エディスグローヴ)
14. エンドレス TV	単独	平成23年7月	イベント 「さよならアナログ放 送」, 場所: KINOHAUS 1階 (映 画美学校)	アナログ放送が停波となり、ついに無用 の空き箱となったテレビセットは、今霊 柩車に載せられて去ってゆく。アナログ 放送の出棺である。
15. 時間の枝	単独	平成23年7月	企画展 「時計」interaction design workshop 展	時計をテーマにした展覧会に出品 時間という概念をディスプレイとして の時計をテーマにして作品を展示 日本大学芸術学部江古田校舎ギャラリ ー棟 A&D ギャラリー

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (出品) 16. 東京芸術発電所	共同	平成23年10月	場所: 東京藝術大学美術学部構内絵画棟大石膏室 アートスペース 主催: I, CULTURE PUZZLE	同時開催されている福島の漆工芸品展示会に電気を供給する本展示は、いままで福島で作ってもらっていた電気を東京でアーティスト達が手作りし、工芸展を照らし出そうとするプロジェクト。 池田剛介, 小町谷圭, 山川冬樹ほか
17. SPACE SHOWER MUSIC VIDEO AWARDS 2012	共同	平成24年2月	株式会社スペースシャワーネットワーク	株式会社スペースシャワーネットワーク(本社: 東京都港区、代表取締役社長: 清水英明)が運営する日本最大の視聴世帯数を誇る音楽専門チャンネル・スペースシャワーTVで、2011年にリリースされた楽曲のミュージックビデオの中から優秀作品を選出する番組「SPACE SHOWER MUSIC VIDEO AWARDS」の特設サイト並びに番組の動画を共同で制作。
18. FM Re-rising Sun 87.2MHz	共同	平成24年5月	Kesen Transplant アート交流プロジェクト まちづくり復興支援プロジェクト けせん ふえす 岩手県大船渡市 主催: けせん ふえす実行委員会	FM リライジングサンは、ソーラーパネルで日中に蓄えた電力を用い、日没後に開始するラジオ放送。一帯が暗闇となった沿岸部に位置する気仙沼サン・アンドレアス公園。そこに残されたモニュメントのライトアップが放送開始の合図。季節や天候により時間帯が変わるため、開始を告げる明かりをたよりに、電波の届く地域に暮らす方々の日々の心の変化を追ったインタビューを聴く3日間のイベント。 小町谷圭、小森はるか
19. Dissolution	単独	平成25年12月	北海道立近代美術館	本作品はメディアが事物を代行する上で、対象への距離によってもたらす認知の位相をテーマに、積もった雪を映し出すライトボックスを虫眼鏡で覗くことで微視的世界の中で雪の結晶が急速に溶解している様が映し出される。
20. Crystallization	単独	平成25年12月	北海道立近代美術館	定期的に浮かび上がる断片的なイメージが徐々に退色しながら重なることで雪の結晶として結像する。
21. フォレスト・シンフォニー	共同	平成26年7月	モエレ沼公園 札幌国際芸術祭	札幌国際芸術祭 2014 のゲストディレクターである坂本龍一氏と YCAM の作品の札幌でも展示に於いてのテクニカルチーフを担当
22. 時の枝	共同	平成26年10月	札幌三井JPビルディング 眺望ギャラリー テラス計画 主催: 札幌駅前通まちづくり株式会社	人が何かを想像したり、制作する「かたちになる前のかたち」を展示し、ものごとが出来上がるまでのプロセスを覗き見ることができる企画展「アイデアのかたち展」に出品。
23. 山口小夜子 未来を着る人	共同	平成27年4月	東京都現代美術館	照明システムデザインとして参加

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (出品) 24. 文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つながり・キカイ」- 2016	共同	平成28年9月	主催: 文化庁 後援: 札幌市, 札幌大谷大学, 札幌大谷大学短期大学部 特別協力: クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 協力: サッポロファクトリー, 札幌国際芸術祭実行委員会 運営: 文化庁メディア芸術祭札幌展事務局 (電通北海道内)	企画/ディレクターを担当 地方において優れたメディア芸術を鑑賞する機会を提供することを事業の趣旨として、企画提案の中から平成29年度は国内3箇所で開催。札幌では初めての開催となった。
25. さっぽろ垂水まつり 2017	共同	平成29年2月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 札幌市資料館	プロジェクトリーダーとして企画・運営 http://dep-art-ure.jp/?p=10070
26. 札幌国際芸術祭 2017 「ARTSAT×SIAF LAB.」	共同	平成29年8月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: モエレ沼公園	成層圏気球を用いたアートプロジェクト。「宇宙から見える彫刻 宇宙から聞こえる即興演奏」「全知性のための彫刻」の2作品の発表、並びに関連イベントを開催。プロジェクトマネージャーとして企画・運営に関わる
27. 光州メディアアーツ・フェスティバル 2017	共同	平成29年11月	主催: 光州文化財団	モエレ沼公園と成層圏をつなぐライブコーディングに関するインスタレーションと、再現パフォーマンスを実施
28. さっぽろ垂水まつり 2018	共同	平成30年2月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 札幌市資料館	企画・運営
29. 夏至祭 in モエレ沼公園	共同	平成30年6月	主催: 札幌国際芸術祭実行委員会/共催: 公益財団法人札幌市公園緑化協会 協力: 札幌大谷大学/助成: 平成30年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業	モエレ沼公園と成層圏を通信によってつなぐライブコーディングによるパフォーマンスを行った。
30. さっぽろ垂水まつり 2019	共同	2019年2月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 札幌市資料館	つららをテーマにしたフェスティバルの企画・運営

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (出品) 31. 展示「SNOW PLOW TRACE—雪の痕跡—」	共同	2019年2月	企画: Sapporo WInterChange 主催: 札幌市 企画運営: 札幌文化芸術交流センター SCARTS (札幌市芸術文化財団) 協力: 札幌国際芸術祭実行委員会 札幌駅前通地区活性化委員会 助成: 平成30年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業 会場: 札幌市民交流プラザ	2018年10月にオープンした複合文化施設「札幌市民交流プラザ」で、札幌の冬を楽しくできるか考えるプログラム「Sapporo WInterChange」にて、除雪車にフォーカスを当てた展示を行った。
32. 18 th Media Art Biennale WRO 2019	共同	2019年5月	主催: WRO Center for Media Art Foundation 場 所: Bakery, Wroclaw, Poland	作品「SCULPTURE TO BE SEEN FROM SPACE, IMPROVISATION TO BE HEARD FROM SPACE - WRO2019 VERSION」を発表。
33. 夏至祭 in 札幌市資料館	共同	2019年6月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 札幌市資料館	昨年に続き2回目の開催となる夏至祭。SIAF ラボは、今年5月にポーランドで行われた「WRO メディアアートビエンナーレ 2019」に参加し、気球を使ったアートプロジェクト「Space-Moere プロジェクト」を成功させました。その報告と、現地でのパフォーマンスを再演しました。
34. 展示「SNOW PLOW TRACE—雪の痕跡—」	共同	2020年2月	企画: Sapporo WInterChange 主催: 札幌市 企画運営: 札幌文化芸術交流センター SCARTS (札幌市芸術文化財団) 協力: 札幌国際芸術祭実行委員会 札幌駅前通地区活性化委員会 助成: 平成30年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業 会場: 札幌市民交流プラザ	複合文化施設「札幌市民交流プラザ」のSCARTS で、札幌の冬を楽しくできるか考えるプログラム「Sapporo WInterChange」にて、除雪車にフォーカスを当てた展示を行った。
35. さっぽろ垂氷まつり 2020	共同	2020年2月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 札幌市資料館	つららをテーマにしたフェスティバルの企画・運営

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (記録集) 1. FM CROSSWORD	共著	平成15年3月	ART UNIVERSIADE- 菜の花里美発見展記録集 全159頁	(掲載箇所) pp. 108~109 菜の花里美発見展にて開催された”FM-Crossword” のコンセプトとドキュメント。 (監修) 北川 フラム (編集) 菜の花里美発見展実行推進委員会 (共著者) 小町谷圭、亀井宏明、トウウ
2. 第2回恵比寿映像祭“うたをさがして” カタログ	共著	平成22年	発行: 東京都写真美術館	pp. 78-81
3. メディア芸術アーカイブス 15 years of media arts 1997-2011	共著	平成24年2月	発行所: 株式会社ピー・エヌ・エヌ新社	pp. 37
4. OS10 A Perspective of Art and Media Technology Documents of ICC OPEN SPACE 2006-2015	共著	平成28年3月	企画: NTTコミュニケーション・センター 発行: 東日本電信電話株式会社	pp. 58
5. SIAF Lab. カタログ	共著	平成28年6月	企画: SIAFラボ 制作: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	企画及び原稿作成に参加
6. SIAF Lab. カタログ	共著	平成29年6月	企画: SIAFラボ 制作: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	企画及び原稿作成に参加
7. SIAF Lab. カタログ	共著	2018年6月	企画: SIAFラボ 制作: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	企画及び原稿作成に参加
8. SIAF Lab. カタログ	共著	2019年6月	企画: SIAFラボ 制作: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	企画及び原稿作成に参加
(依頼原稿) 1. 「PTP」ができるまで	単著	平成23年1月	先端芸術表現科卒業修了制作2010 pp. 164~165	(担当部分概要) 先端芸術表現科は発足から、「プロジェクトザプロジェクトーズ」というタイトルで学生が主体となって卒業・修了制作の企画・運営を行ってきた。自身の表現を媒介に外部に対し関係を持つとした企てや投じるといった態度表明がどのように発案されたのか企画を担当した当手を振り返り明記。
2. デジタル時代の絵画の可能性について		平成24年1月	寄稿 東京藝術大学先端芸術表現科卒業制作展カタログ, 第61回東京藝術大学卒業・修了作品展	コンピュータ上で油絵の具をシミュレーションするソフトウェアの開発やソフトを活用した制作から得られたデジタル時代の絵画の可能性についてのインタビュー。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(依頼原稿) 3. 人と自然が響きあう都市のかたち—札幌国際芸術祭2014ドキュメント	共著	平成26年12月	株式会社平凡社	札幌国際芸術祭2014 (SIAF2014) を様々な視点からまとめた書籍
4. ナムジュン・パイク <<TheMore, theBetter>>に関するノート	寄稿	平成27年3月	東京藝術大学社会連帯センター	JSPS科研費24652028『現代美術における保存・修復ネットワークの構築(研究代表者平愉一郎)研究成果。執筆者:荒井経, 上崎千, 久保仁志, 小林芳妃, 小町谷圭, 平愉一郎
(その他) (イベント) 1. Lib-LIVE! ‘について	共同	平成17年12月	展覧会 “アート&テクノロジーの過去と未来展 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]	<トークイベント> 各大学の新設されたメディアアート学科の学生らが共同運営する企画 Lib-LIVE! ‘についての概要とシステム、また今後の展望についてのトークセッション。 (企画監修) 四方幸子 (共同発表者) 小町谷圭、小柳淳嗣、中村崇之、廣田ふみ、渡邊朋也
2. オープン・サロン アーティスト・トーク+「油絵描画シミュレーションソフトウェア」デモンストレーション	共同	平成19年12月	招待講演 主催: NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]	講演者: 小町谷圭(東京芸大), 明貫絃子 (ICC学芸員), 齋藤豪 (東京工業大学, 准教授), 伊藤由花 (東京工業大学齋藤豪研究室)
3. ユートピアンナイト	共同	平成23年7月	主催: 武蔵野美術大学	場所: 飯田橋「文明」 【ゲスト】 小町谷圭 小柳淳嗣 谷口暁彦 クリストフ・シャルル 主催: 武蔵野美術大学映像学科3年メディアアートII 協力: 武蔵野美術大学映像学科研究室
4. エンドレス TV	単独	平成23年7月	イベントタイトル: 「さよならアナログ放送」	場所: KINOHAUS 1階 (映画美学校) トーク: 出演: 藤幡正樹、金平茂紀、吉見俊哉 作品上映・展示: 竹内均、藤幡正樹、小町谷圭
5. 「不思議な一日」	共同	平成24年9月	エキマエドオリ HANA CAFÉ - 札幌駅前通地区活性化実験-	主催: 札幌駅前通地区活性化検討委員会 「北3条通」では、文化芸術を活用した創造的空間づくりの一環で、札幌大谷大学美術学科メディア表現領域の学生らとアニメーション公開制作した。
6. ホームムービーの日 さっぽろ	共同	平成26年10月	主催: 札幌市東区×札幌大谷大学	8ミリフィルムアーカイブ化による地域の歴史伝承事業プロジェクトの一環でプライベートフィルムを持ち寄り上映する国際的なイベント「ホームムービーの日」の札幌開催。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (イベント) 7. 半世紀前の映像際	共同	平成27年3月	主催：札幌市東区×札幌大谷大学	8ミリフィルムアーカイブ化による地域の歴史伝承事業プロジェクトの一環で半世紀前の映像の上映会、また8ミリフィルムアーカイブのドキュメンタリーの上映
8. ワークショップ：コレなーんだ!?	共同	平成27年3月	主催：札幌市東区×札幌大谷大学 会場：元町児童会館	8ミリフィルムアーカイブ化による地域の歴史伝承事業プロジェクトの一環で8ミリフィルムの映写機を初めて見る児童館に通う小学生を対象に使い方や上映会を行った。
9. SIAF パブリックミーティング： ハンド・メイド・ジョウロ・ボット 自動水やりマシンづくり&プログラミング体験	共同	平成27年7月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館SIAFプロジェクトルーム	マイクロコンピュータArduino
10. SIAF パブリックミーティング： シェフ Watson と拓く北の味覚 コンピューターと一緒に新しい郷土料理を創ろう！	共同	平成27年7月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館SIAFラウンジ	シェフ Watsonは、無限の食材を組み合わせ、私たちが思いもつかない新しいレシピを提案してくれる今話題の認知型コンピュータ。シェフ Watsonと共に道産食材を使った新しい郷土料理に挑戦するワークショップ。
11. プログラミング・ワークショップ [子供編・大人編 合同展覧会] オト・ナ・コード・モ	共同	平成27年9月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 協力：札幌市立大学 助成：文化庁 27年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業 会場：札幌市資料館SIAFラウンジ	企画 SIAF ラボ プロジェクトメンバー(石田勝也、漆崇博、小町谷圭、齊藤ふみ、佐藤正範、細川麻沙美、船戸大輔)
12. VHSHOW02	共同	平成27年11月	会場：札幌 CAI02	Vertical Horizontal のサウンド&ヴィジュアルショーケース「VHSHOW 02」に船戸大輔氏と参加。
13. SIAF ラボ ツララ・バトル・サッポロ 2016 -つららハッカソン-	共同	平成28年2月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館	チームごとに制作するオリジナル「つらら」のアイデアや技術、出来栄を競うイベント。 企画・審査員として参加
14. SIAF ラボ「日本初？ つららスキャンワークショップ」	共同	平成28年2月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館SIAFプロジェクトルーム	3D スキャニングに向かない透明なつららのスキャンするワークショップ 企画に参加
15. SIAF ラボ「つららアクセサリーをつくらう！」	共同	平成28年2月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館SIAFラウンジ	3D プリンタで小さく出力した「つらら」を使って、オリジナルのアクセサリーを作るワークショップ。 企画に参加

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (イベント) 16. ARTSAT×SIAF LAB. 開実験	共同	平成28年9月	主催:札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場:モエレ沼公園	札幌国際芸術祭 2017 の参加にあたり、成層圏気球を用いたプロジェクトの公開実験。 http://daily.siaf.jp/634/
17. SIAF ラボ presents' Sonic Pi 講座 ~プログラミングでライブをしよう!~	共同	平成28年9月	主催:札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場:札幌市資料館	文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つなぐ・キカイ」と札幌国際芸術祭との連携イベントとして、サウンドプログラミングのワークショップを企画/実施
18. Phantom Sketch Mod. TALK&Experience : Brain Machine KASINA / Sugen Takeda (八幡書店)	共同	平成28年10月	主催: No Maps 実行委員会 企画: 宇川直宏 会場: king xmhu	出演: 武田崇元・小町谷圭 日本における先駆者的VJの一人として認知される宇川直宏氏の企画 「Phantom Sketch Mod.」にて、1980年代のオカルト・ブームの火付け役で学研発行のオカルト雑誌『ムー』創刊時から顧問を務め、シンクロエナジヤイザーやホロフォニックといったブレインマシンを日本へ紹介した武田崇元氏と80年代のクラブ/サブカルチャーの動向などを対談、並びに歴代のシンクロエナジヤイザー実機の体験。
19. 北海道大学 Costep シンポジウム 「手のひらから宇宙まで:電波が創発するコミュニケーション、そしてアート」	共同	平成29年3月	主催: 北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 共催: 北海道大学 物質科学フロンティアを先導するAmbitiousリーダー育成プログラム 協力: 札幌国際芸術祭実行委員会 会場: 北海道大学 工学部 フロンティア応用科学研究棟 鈴木章ホール	展示ディレクターを担当 出演: 久保田 晃弘 (多摩美術大学 教授、ARTSAT×SIAF ラボ (SIAF2017 参加作家) プロジェクトリーダー) 大鐘 武雄 (北海道大学 大学院情報科学研究科 教授) 原島 博 (東京大学 名誉教授、東京大学大学院 情報学環 特任教授) 展示ディレクター: 小町谷 圭 (こまちや けい) 司会: 朴炫貞
20. 佐藤直樹個展「秘境の東京、そこで生えている」	技術協力	平成29年4月	主催: そこで生えているプロジェクト実行委員会 会場: アーツ千代田 3331 メインギャラリー	[展覧会制作] ディレクター: 金上みはる / コミュニケーションディレクター: 山本敦子 / アーツ千代田 3331 [会場制作] 空間構成・演出: 生西康典 / 照明設計: 小駒 豪 / 音響設計: 池田野歩 / プログラミング: 涌井智仁 / 録音: 大城真 / 音: ククナツケ / 歌: 池間由布子 / 技術協力: 小町谷 圭 / 協力: 轟 岳 (ドゥイ) / アーツ千代田 3331 [ウェブサイト制作] Toshio KINA (DPGM)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (イベント) 21. ジュニア・プログラミング・ワールド 2017	共同	平成29年10月	主催: No Maps実行委員会 共催: 一般財団法人さっぽろ産業振興財団、一般社団法人北海道IT推進協会 会場: インタークロス・クリエイティブ・センター クロスガーデン	小・中学生を対象にプログラミング環境を紹介する体験プログラムに参加。
22. 札幌 - 東京 ライブコーディングサミット	共同	平成30年11月	主催: 札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場: 赤レンガテラス	リアルタイムにコードを実行させたまま、変更を加えていくことで、ただちに結果がフィードバックされるライブコーディングというメディアパフォーマンスについて、Algorave (アルゴリズム+ライブ) 文化の中核的存在でもある Alex McLean 氏と東京の TOPLAP Japan と中継をつなぎ、クリエイティブコーディングの可能性についてミーティングを行いました。また遠隔地を接続し、コーディングを行うテレコーディングの実験を行いました。
23. 18th Media Art Biennale WRO 2019	共同	2019年5月	主催: WRO Center for Media Art Foundation 場所: Four Domes Pavilion, Wroclaw, Poland	WRO ビエンナーレ 2019 にて、地元のハムラジオグループと成層圏バルーンのチームとコラボレーションしたパフォーマンス「SCULPTURE TO BE SEEN FROM SPACE, IMPROVISATION TO BE HEARD FROM SPACE - WRO2019 VERSION」をオープニングアクトとして発表。
(その他) (ソフトウェア開発) 1. サウンドプログラミング環境「Sonic Pi」の日本語化	共著	平成27年10月	https://github.com/si aflab/sonic-pi	海外でプログラミング教育に利用されているソフトウェアSonicPiを日本語化。
2. Haskap Jam Pack	共著	平成28年3月	https://github.com/si aflab/haskap-jam-pack	ソフトウェアSonic Piの機能を拡張するエクステンションを公開
(その他) (シンポジウム) 1. 今日の『卒制展』	共同	平成18年3月	シンポジウム 多摩美術大学「デザインする情報芸術」実行委員会	(共同発表につき本人担当部分抽出不可能) 2000年前後に新設されたメディアアート系の学科の卒業制作展の動向について。セルフプロデュース、企画、運営手法などの傾向についてのトークセッション。 (共同発表者) 四方幸子、小町谷圭
2. 絵画とコンピュータ		平成24年3月	特別講義 場所: 東京芸術大学第一講義室 主催: 東京芸術大学芸術情報センター	絵画とコンピュータという表現メディアを横断しながらこれまで行ってきた活動を紹介。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (シンポジウム) 3. ”DIY Money (Maker Faire のためのお金をつくる)” (講演),	単独	平成24年6月	「Maker Conference Tokyo 2012」 場所: 日本科学未来館 主催: 株式会社オライリー・ジャパン	レーザーカッターや3Dプリンターなどの新しい道具によって、大量生産の理論に左右されないものづくりがおこなえるようになってきている。こうしたDIYの精神を基に開催されているmakeというイベントで自分たちで造幣できるお金を作る事が出来るかを発表。 (司会) 久保田 晃弘 (多摩美術大学、FabLab Shibuya)
4. メディア・アーツ・サミット「第一部、映像というメディアについて」	共同	平成24年7月	Media Arts Summer Festival 2012[FINAL CUT], インタークロス・クリエイティブ・センター 主催: 独立行政法人国際交流基金, S-AIR	インターネット上で映像が無料で大量に流れる現代、映像作家、メディアアーティスト達は何を考え、今後どこにいくのか? 作家だけでなくメディアの専門家、映像技術者、そして参加作家を交えながら、それぞれの立場から討議を進めていきます。 司 会: 伊藤隆介氏 (映像作家) ゲスト: 小町谷圭氏 (メディア・アーティスト) 服部亮太氏 (sapporo6h) 藤原聖士氏 (New Peak Films)
5. STOP MAKING SENSE PANEL DISCUSSION	共同	2019年5月	主催: WRO Center for Media Art Foundation 場所: BARBARA, Wroclaw, Poland	コンピュータを扱うさまざまなアーティストが、どのように「それをヒトの感覚に利用可能であるか」という問題について戦略を提示し、どのようにディスカッションを行った。 Moderation: Geoff Cox (GB/DK) Kim Albrecht (DE) + Paweł Janicki (WRO) + Akihiro Kubota (JP) + Kei Komachiya (JP) + Winnie Soon (HK) + Andres Visti (DK)
6. 第17回文化庁メディア芸術祭アート部門「アートがもたらす世界の捉え方 03～ネットワークが繋ぐ真実」	共同	平成25年3月	会場: 国立新美術館 [3階 講堂]	出演: James BRIDLE (優秀賞『Dronestagram』)、Amor MUNOZ (新人賞『Maquila Region 4』)、小町谷圭 (選考委員/メディアアーティスト/札幌大谷大学講師) モデレーター: 植松 由佳 (審査委員/国立国際美術館主任研究員) 文化庁メディア芸術祭の受賞作品について作家自らがプレゼンテーション。審査委員やゲストの講評を交え、作品の魅力を紹介。
7. 「メディア・アーツ」というターミノロジーについて	単独	平成25年3月	北海道芸術学会2013年度総会および第22回例会 場所: 北海道立近代美術館	札幌市がメディア・アーツ部門として創造都市ネットワークに加盟し、また本年7月より開催される札幌国際芸術祭でも現代美術と共にメディア・アートが取り上げられます。 メディア芸術やメディア・アートという術語とそれにカテゴライズされる作品群はこれまでの諸芸術と何が異なるのか、いわば宙づりのままこうした術語によって体裁を整えなければいけなかった運動について発表。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (シンポジウム) 8. 若手作家にとってのコンテストと芸術祭	共同	平成26年8月	シンポジウム 札幌国際芸術祭2014特別連携事業 学生CGコンテスト20周年記念イベント 主催 CG-ARTS協会	札幌でメディアアートやメディアデザインの教育にたずさわる二人をお招きし、アートやクリエイティブな分野に進もうとしている若者に向けて、コンテストや芸術祭の活用方法について話合います。 出演：小町谷圭（札幌大谷大学講師）、石田勝也（札幌市立大学講師） モデレーター：原田大三郎（学生CGコンテスト審査員長）、阿部芳久（CG-ARTS協会）
9. 札幌国際芸術祭 センシング・ストリームズ トークシリーズ#4 クロストーク「さっぽろメディアスケープ：つながる都市」	共同	平成26年8月	主催 創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	札幌におけるメディアアートなどの取り組みについて紹介しながらこれからの創造都市さっぽろについて議論する。出演者：石田勝也（札幌市立大学講師）、小町谷圭（札幌大谷大学講師）、船戸大輔（プログラマー）
10. メディアアート・ラボから考える都市文化-YCAM InterLab-	共同	平成26年9月	主催 札幌市立大学 札幌国際芸術祭連携事業	YCAM InterLabのディレクター 伊藤隆之氏を迎え、札幌やメディアアート・ラボの視点から都市文化をつくることについて考えるイベントを開催。「札幌国際芸術祭 2014」の連携事業として札幌市立大学で行われ、司会は、札幌大谷大学芸術学部 小町谷と札幌市立大学 デザイン学部 石田 勝也氏。
11. メディアアート・ラボから考えると都市文化 vol.2-ライゾマティクス-	共同	平成27年1月	共催：札幌大谷大学, 札幌市立大学	ライゾマティクスのメンバー真鍋大度氏、石橋素氏を迎え、札幌やメディアアート・ラボの視点から都市文化をつくることについて考えるイベントを開催。
12. SIAFパブリックミーティング：第1回パブリックミーティング - SIAF2017に向けて-	共同	平成27年7月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館2階研修室	札幌市市民、第1部、2部の専門家と共に、次回の札幌国際芸術祭を考えます。
13. SIAFラボ アート界限の人々 第1回 展覧会エンジニアってなんですか？	共同	平成27年8月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館2階 SIAFプロジェクトルーム	ゲスト 金築浩史（展覧会エンジニア）、小町谷 圭（メディアアーティスト/札幌大谷大学講師）
14. Bent Icicle Project -Tulala -冬の形相(けいそう)を創る	共同	平成27年10月	主催：札幌市創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会場：札幌市資料館2階 SIAFプロジェクトルーム	プロジェクト概要： 【講師：小町谷 圭（メディアアーティスト、札幌大谷大学講師）】 レクチャー「雪や氷の科学」： 【講師：古川 義純（北海道大学 低温科学研究所 特任教授）】 レクチャー「つららの揺らぎ」： 【講師：小川 直久（北海道科学大学 高等教育支援センター 教授）】

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (シンポジウム) 15. 第18回文化庁メディア 芸術祭 受賞者ト ーク	共同	平成28年2月	主催: 文化庁 会場: 国立新美術館 [3 階 研修室A・B]	出演 長谷川 愛 (アート部門優秀賞『(不 可能な子供、01: 朝子とモリガの場 合』) 業田 良家 (マンガ部門優秀賞『機械 仕掛けの愛』) モデレーター 小町谷 圭 (アート部門選考委員/メ ディアアーティスト/札幌大谷大学 専任講師)
16. SIAFラボ「つらつら 中谷宇吉郎」	共同	平成28年2月	主催: 札幌市創造都市さ っぽろ・国際芸術祭実行 委員会 会場: 札幌市資料館2階 SIAFプロジェクトルー ム	北海道大学 理学研究院 物理学部門 量子物理学分野 特任教授 杉山滋 郎氏をお迎えして人工雪の生成に世 界で初めて成功したことで有名な科 学者 中谷宇吉郎の多様な側面を、関 連映像とトークで科学的視点から 紹介。 企画に参加
17. 文化庁メディア芸 術祭札幌展 - 2016 SPECIAL TALK 「メ ディア芸術祭入門」	共同	平成28年9月	主催: 文化庁 後援: 札幌市, 札幌大谷 大学, 札幌大谷大学短期 大学部 特別協力: クリプトン・ フューチャー・メディア 株式会社 協力: サッポロファクト リー, 札幌国際芸術祭実 行委員会 運営: 文化庁メディア芸 術祭札幌展事務局(電通 北海道内) 会場: サッポロファクト リーアトリウム	出演: 藤木淳/久保田晃弘/小町谷圭 文化庁メディア芸術祭札幌展の開催 にあたり、出品者である藤木淳氏、 そしてエンターテイメント部門の審 査員を務めた(16回-18回)久保田晃 弘氏をお迎えし、文化庁メディア芸 術祭札幌展のディレクターであり、 アート部門の選考員を務めた(17回 -19回)小町谷圭による、メディア芸 術祭についてのトーク。
18. SIAF ラボ ラウンジトーク vol.3 「リアリティ ってなんだ?」	共同	平成28年9月	主催: 札幌市創造都市さ っぽろ・国際芸術祭実行 委員会 会場: 札幌市資料館	出演: 藤木淳/小町谷圭 SIAF2017をはじめとする札幌で特徴 的な芸術文化活動を担う人々をゲスト に迎え、それぞれが専門とするジ ャンルや特徴、活動原点、歴史、変 遷、成り立ちについてお話を聞き、 参加者と共有し、意見交換を通じて、 学びあうプログラム。リアリティに ついて、知覚や認知の問題などを取 り上げながら、作品を通して議論。
19. 京都大学 第10回宇 宙ユニットシンポ ジウム ポスターセッション	共同	平成29年3月	主催: 京都大学宇宙総 合学研究ユニット、京都 大学理学研究科附属天 文台 後援: 宇宙航空研究開 発機構、京都府教育委員 会、京都市教育委員会、 和歌山大学国際観光学 研究センター	「宇宙研究の広場」ポスター出展 京都大学宇宙総合学研究ユニットで は、理学、工学、人文社会科学の幅 広い領域に渡る 総合的な宇宙研究 の開拓を目指して発足し、JAXA/ISAS とも連携して、人類が生きていく 生 存圏としての宇宙に関わる諸問題の 研究を推進しており、札幌国際芸術 祭に出展するプロジェクトについて ポスターセッションに参加。

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (シンポジウム) 20. 札幌市立大学公開講座「クリエイティブコーディングスクール札幌 2017 札幌国際芸術祭編」	共同	平成29年7月	主催：札幌市立大学	デジタルアートやパフォーマンス、デザイン、広告制作などで、プログラミングでビジュアルやオーディオを生成したり、データを可視化したりする技法として、「クリエイティブ・コーディング」が注目されており、今回の公開講座では、札幌国際芸術祭 2017 の開催にあたり、ARTSATxSIAF ラボで使用する予定の Sonic Pi を実際に動かしながら実践的に学ぶ講座を金井謙一と共に担当。
21. メディアアーツ政策都市会議	共同	平成29年12月	主催：光州文化財団 ユネスコ創造都市ネットワーク 場所：光州, 韓国	ユネスコのメディアアーツ創造都市ネットワークに加盟する都市から、市職員や各作家らが参加し、4次産業革命、メディアアートと未来都市についてのミーティングに参加。
22. メディアアートとは？～space-moereへの軌跡	共同	平成30年6月	主催：札幌国際芸術祭実行委員会／共催：公益財団法人札幌市公園緑化協会 協力：札幌大谷大学／助成：平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業	講師： 久保田 晃弘 (SIAF ラボプロジェクトリーダー) 小町谷 圭 (SIAF ラボプロジェクトディレクター) 宮井 和美 (モエレ沼公園学芸員)
23. 札幌国際芸術祭 2020 ディレクターズトーク第2弾「とっておきの『メディアアート』大集合！」	共同	2019年2月	主催：札幌市 会場：札幌市民交流プラザ 1階 SCARTS コート	スピーカー アグニエシュカ・クビツカ＝ジェドシュツカ (SIAF2020 企画ディレクター [メディアアート担当]) 馬 定延 (研究者) 小町谷 圭 (SIAF ラボ プロジェクトディレクター) 2020 年度の冬季に開催予定の札幌国際芸術祭 2020 では、現代アート担当とメディアアート担当の 2 名の企画ディレクターが発表され企画ディレクターのうちメディアアートを担当するジェドシュツカ氏とメディアアート作品を紹介。
24. STOP MAKING SENSE	共同	2019年5月	主催：WRO Center for Media Art Foundation 場所：BARBARA, Wroclaw, Poland	Kim Albrecht (DE) + Paweł Janicki (WRO) + Akihiro Kubota (JP) + Kei Komachiya (JP) + Winnie Soon (HK) + Andres Visti (DK) コンピュータを扱うさまざまなアーティストが、どのようにして「人間の感覚に利用可能であるかどうか」という問題についてディスカッションを行なった。
25. 「展覧会のバックステージをのぞき見！展覧会エンジニアってなに？」	共同	2020年2月	主催：札幌市 会場：札幌市民交流プラザ 1階 SCARTS モール	スピーカー： 岩田拓朗 (SCARTS テクニカルディレクター)、平川紀道 (アーティスト)、SIAF ラボプロジェクトディレクター：石田勝也、小町谷圭、船戸大輔